

国際経済学科 ディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP)及びアセスメント・ポリシー

DP		CP 編成方針	アセスメント・ポリシー	
第一層	A	幅広い教養と専門的知識・技能を身に付けている。	卒業認定・学位授与の方針に示す質的水準の達成状況である学生の学修成果としての各学修成果については、下表に定めるとおり、各授業科目の到達目標に対する学修者の到達度について実施されるDP観点別評価の結果を集約するとともに、本学が定める大学のアセスメントマップに示す各種調査などを必要に応じて用いることによって、その修得状況を把握し可視化する。 また、本学科の教育内容・活動については、把握・可視化した学修成果をふまえ、アセスメントマップに示す各種調査などをを用いることで、多角的に検証する。 その検証結果は、自己点検・評価活動やFD活動において、本学科の教育改革・改善に資するよう活用する。	
	B	学びと研究の質を高めることができる思考力・判断力・表現力等を幅広く身に付けている。		
	C	地域社会及び国内外の諸課題の解決に主体的・創造的に参画・貢献することができる。		
	D	自己の成長と社会の発展のために、自律的に学び続ける態度を身に付けている。		
第二層 (共通科目)	A-1	幅広い学問領域の基本的な概念や理論を修得し、教養としての知識・技能を身に付けることで、社会事象を多面的に理解することができる。	学修成果を測定する方法 主な科目 各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「知識・技能」の学修成果を測定する。 教養科目	
	B-1	学びや研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を獲得し、幅広い領域に活用することができる。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「思考力・判断力・表現力等」の学修成果を測定するとともに、外部検定試験や外部アセスメントテストの結果も活用する。 外国語 データリテラシー スタディスキル ヘルシイリテラシー	
	C-1	修得した資質・能力を主体的に活用し、多様な人々と協働しながら実際の課題に取り組み、創造的に課題解決に向かうことができる。	各科目におけるグループワークや研究発表、実演等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「総合的な学修経験・創造性」の学修成果を測定する。 ライフデザイン応用	
	D-1	社会的課題やそれに対する学習・研究を通して、我々の生き方の指針を深く考え、自律的に真理を探究し続けることができる。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト、研究発表等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「態度・志向性」の学修成果を測定する。 キリスト教 ライフデザイン基礎 西南学院史	
第二層 (専攻科目)	A-2	国際社会の変化とビジネスのグローバル化について、歴史や文化等の観点から自分の考えを説明できる。	国際経済を理解する上での基礎理論、各国の歴史・文化・社会、外国語の修得等に関する各科目における小テスト、期末課題等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して、国際経済を理解するための基礎力及び経済学的思考法の「知識・技能」の学修成果を測定する。 A グローバリゼーションの実態や世界全体の諸相に対する理解度を深めることができるよう、テーマに沿って複数の国や地域を横断的に学ぶ科目、日本と関係の深い諸国の経済について専門的に学ぶ科目、政治経済・社会・文化等の多様な側面から歴史的に分析する科目を、1年次より配置する。 グローバリゼーションの実態や世界全体の諸相に対する理解度について、主に量的評価、総括的評価を中心とした小テスト、期末課題等によって、その学修成果を測定する。 世界経済論、中国経済論、東南アジア経済論、中東経済論、アメリカ経済論	
	A-3	モノ・カネ・ヒト・情報の国境を越えた移動について、市場が果たす役割と限界を理解できる。	人々の自由な意思決定に基づいて行われるモノ・ヒト・カネ・情報の国境を越えた移動がもたらす経済的成果と限界及び、これらに対する政府の介入の意義を考察するための理論経済学科目を、1年次及び2年次を中心に配置する。 人々の自由な意思決定に基づいて行われるモノ・ヒト・カネ・情報の国境を越えた移動がもたらす経済的成果と限界及び、これらに対する政府の介入の意義に対する理解度を測定するにあたり質的評価、総括的評価を中心とした小テスト、期末課題等によって、その学修成果を測定する。 経済学入門、マクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅰ、国際経済学Ⅰ、国際経済学、経済政策Ⅰ	
	A-4	外国語で発信された経済及び隣接分野に関する情報を収集し、正しく理解することができる。	経済に関する専門的な英語文献を理解するための科目や、実践的な会話を重視し英語運用能力を向上させる科目、また、中国語や韓国語を学習する科目を、1年次及び2年次を中心に配置する。 経済関係の語学科目において、専門的語学力について会話、和訳等の実演による質的評価、形成的評価を行い、量的・総括的評価のための小テストや期末試験等と併せて評価する。国際経済学関係の講義科目においては、質的評価、総括的評価を中心とした小テスト、期末課題等を活用して学修成果を測定する。 時事英語Ⅰ・Ⅱ、経済英語Ⅰ・Ⅱ、経済英語表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、時事中国語Ⅰ・Ⅱ、韓国語会話、Problem Solving Skills for Global IssuesⅠ・Ⅱ	
	B-2	現実の国際問題・経済問題を経済学特有の思考方法等に基づいて考え、判断することができる。	国際経済に関する高度な知識、データ処理をめぐる各科目における小テスト、期末課題等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して経済学をめぐる「思考力・判断力・表現力等」の学修成果を測定する。 B 現実の国際問題・経済問題を経済学特有の思考方法等の理解度について量的評価、総括的評価を中心とした小テストや期末課題を用い、学修成果を測定する。 経済政策Ⅱ、国際経済開論、比較経済制度論、国際金融論、証券投資論	
	B-3	経済及び隣接する分野のデータを理解し、必要に応じて適切に収集、加工することができる。	経済データの収集方法、活用と分析、意義の考察に関する情報処理技術を養成するために、課題理解や技術向上度合いについてPC等を活用した形成的、量的評価を行い、総括的、量的評価のための小テスト、期末課題等と併せて測定する。 C 演習、実習科目におけるグループワークや研究発表、実演等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して能動的・主体的な学びにおける「総合的な学修経験・創造性」を測定する。 計量経済学Ⅰ・Ⅱ、基礎統計学、統計学Ⅰ、経済データ分析実習Ⅰ・Ⅱ	
	C-2	国際経済等の諸問題を理解し、国際経済等についての学びを活用した実践的解決策を見出すことができる。	演習・実習科目においては、グループワークの能動性、取り組みの姿勢について実演を中心とした形成的評価を行う。マクロ・ミクロ実習等においては、量的評価、形成的評価を中心とした小テストや期末課題等によって学修成果を測定する。 D 演習やキャリア関係科目における課題提出、研究発表、議論参加によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して専門的な学びの深さをめぐる「態度・志向性」を測定する。キャリア関係の科目では、外部試験の成果も活用する。 基礎演習Ⅰ・Ⅱ、まちづくり・ひとづくり実習、マクロ経済学実習、ミクロ経済学実習	
	D-2	国際社会の変化に適切に対応するため、国際経済に関する専門知識を活用して今後の見通しを立てることができる。	経済学の実践的な知識と応用力を身に付け、世界の中での日本経済の諸課題を解決するための演習科目等を、3年次を中心に配置する。 演習Ⅰ・Ⅱにおいては、研究課題の専門性・問題意識について、報告・討論等の実演をめぐる形成的評価に加え、知識の深さと専門的スキルについて、質的評価、包括的評価のための小論文、レポート課題等で評価する。卒業研究においては、先行研究の精査や学問的意味をふまえた卒業論文で質的評価、総括的評価を行う。キャリアのための資格については、外部試験の成果を活用する。 演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文、金融・ファイナンス実習、キャリアのための資格	